



かわしま

mail:y3kawash@edu.city.yokohama.jp

http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kawashima/

学校だより 10月号
平成23年9月30日
横浜市立川島小学校
校長 小池 慎一
TEL 371-0757
FAX 381-7248

本を読みたい 読ませたい

学校長 小池 慎一

暑さ寒さも彼岸までという昔からの言い伝えが、ほぼその通りに感じられるほど、秋分の日以降、日中は少し汗ばむものの、朝夕はすっかり秋らしい涼しさの毎日になってきました。

今年4月に実施予定であった全国学力・学習状況調査(震災の影響で中止)の調査用紙が、文部科学省から送られてきましたので、9月27日(火)に、対象となる6年生で、国語、算数の学力・学習状況調査と、児童質問紙(主に子どもたちの意識や生活面についての調査)を実施しました。

児童質問紙について、回答の集計で見られた特徴的な結果について、ご紹介します。

「自分には、よいところがある」という設問に対して、77.1%の児童が、肯定的な回答をしています。今年、平成22年度の全国値74.5%をも上回る結果でした。

自己肯定感をもっている児童が多くなってきていると言えるのではないかと思います。

この「自己肯定感」は、子どもにとってとても大切なもので、何か困ったことに出会っても、「何とか乗り越えられる」「自分を支えてくれる誰かが必ずいる」という思いにつながり、他人への思いやりが生まれるのだそうです。この点は、学校でも大切にしていきたいと思います。

さて、他にもたくさん設問がありましたが、「読書」については、どうでしょうか。

「読書は好きだ」という児童は、68.9%いましたが、1日30分以上読書をするという児童は、31.1%です。つまり「好き」なのに、あまり時間をかけていないということになります。

この原因は様々なことが考えられますが、この質問紙の別の設問の回答を総合的に分析すると、ゲームやインターネット、携帯電話などを使うことに時間が費やされているために、読書の時間が少なくなっているのではないかと考えられます。

学校では、毎週水曜日と金曜日の2回、朝読書の時間を設定し、保護者を中心とした読み聞かせボランティア・図書室ボランティアの方々のご協力も得て、子どもたちが本好きになることや読みたくなる本の紹介をするようにしてきていますが、子どもたちが本を読む時間は、学校にいるあいだよりも、家に帰ってからの方が確保しやすいものと思われれます。

秋は気候も涼しくなり、「読書の秋」と言われるくらい読書に向いている季節だと思えます。

親子で同じ本を読んで感想を話し合う、休日に図書館に出かける、などの工夫をされているご家庭もあると聞いています。今回の「児童質問紙」の集計を見ながら、子どもたちが、もっともっと本に向かえるようになるとういなぁと思えました。